

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	西暦 2022 年 4 月 26 日
報告者	谷口久美子
助成団体名 (所属団体名)	NPO 法人 CASN
団体住所	〒 520-0843 滋賀県 <small>都道府県</small> 大津市北大路1-4-15
団体電話番号	077 - 537 - 5922
代表者 (助成対象者)	谷口久美子
助成対象事業	地域の安心できる居場所・晴嵐みんなの食堂
事業（助成）期間	2018 年 4 月 1 日 ~ 2021 年 3 月 31 日
事業費総額	1,388,831 円
助成金総額	900,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

◆「晴嵐みんなの食堂」はこれまで3つの形をとって実施してきたが、コロナの感染拡大防止の観点から今年度も、石山商店街らんらんサロンの狭い場所でご飯を食べることをメインに実施する活動はやむなく中止し、以下の2つの活動を継続実施してきた。

1つはグラウンドのある栄三自治会館で、大学生さんや大人も含めて大勢の子どもたちが遊びで交流する場、もう一つはカズンの事務所で、学校に行き辛い子どもや家族に支援のいる子どもたちを対象に調理実習をする場。参加人数と開催回数は以下の通りです。

栄三自治会館で実施 8回 参加人数延べ 子ども221人 おとな11人 スタッフ153人

調理実習 13回 参加人数延べ 子ども32人 おとな38人

(上記以外に学習と遊び 11回 対象1人 大人一人)

栄三自治会館での実施は警戒レベルが上がった5月、9月、2月、3月は実施せず。

また、8月と12月は時間を繰り上げ2時間たっぷり遊んで、お弁当を持ち帰る内容に変更した。

◆コロナ禍で、学校や地域の楽しい事業がほとんどなくなる中で、子どもたちに少しでも楽しい体験をしてほしい思いで、別紙のような内容を地域の方や学生さんの力を借りて実施した。

◆調理実習では、参加して来ている子どものうち小学6年生になった子どもたちは次年度の中学に向けて、保護者や学校とも連携して支援にあたってきた。

小学生は保護者や本人と話し、勉強の遅れに不安なく中学に行けるよう、調理実習の前に1時間ほど時間を作った。1時間勉強に集中することは難しく、15分課題をして遊びまた15分勉強するという方法をとって、できるだけ勉強に集中できる工夫もしながら継続してきた。また調理実習以外にも家庭訪問したり、カズンの事務所でマンツーマンでの学習の時間を設けたりした。

また、一人は発達障害の特性がある事から、発達支援センターの方に来てもらい、お母さんも交えて、本人の特性を聞き、支援の方法について学ぶ機会を作った。

もう一人は、小さいころから被虐待児として拳がっており、精神的に不安定なお母さんを受け止め、お母さんの愚痴を聞く役割をしてきたお兄ちゃんとも面談したりすることで、少しでもお母さんが安定して本人に向き合えるよう配慮をしてきた。また本人に変わった様子があったり、お母さんの変化があったりした時は学校や子ども家庭相談室とも情報共有してきた。

◆2021年はカズン設立20周年にあたるため、その記念事業として1泊2日のキャンプを朽木の森キャンプ場で実施。晴嵐みんなの食堂に参加する子ども達19名が参加した。

3、事業成果

◆子どもを真ん中に地域が繋がり、一人の子どもも孤立させない 地域の教育力

・運営は地域の自治連合会、社協、民児協、健康推進協議会と私たち NPO、そして大津市社協のバックアップも得て継続してきて6年目の年。最初は斜めを向いて実行委員会に参加されていた地縁の組織の方たちも、毎回子どもたちの状況を伝え続けることで、だんだん横並びになってこられ、別紙のように、民児協さんの活動の一つとして紹介してもらえるようになったことは、大きな成果の一つと言えます。今は、みんなの食堂で必要な遊具の運搬や、グラウンドでの見守りなどを進んでくださっている。「うちの地域はカズンさんがいてくれるから子ども食堂もできている」と言ってもらえるようになった。

・少しでも子どもたちにとって楽しい場になるように、少しでも体験を広げられたらという思いで、地域の人たちの様々な力を借りてプログラムの工夫をしてきた。

花見の時には地域の市議員さんが花見団子の差し入れ、ハロウィンやクリスマスにはかぼちゃのお化けになったり、サンタクロースになってくれたりする民生委員さん、クリスマスの料理提供をかってでくれる健康推進委員さん、生演奏と絵本の読み聞かせのステージを担当してくれる方等々、地域の様々な方の力で子どもたちの体験が広がっている。

◆参加者みんなにとっての居場所

子どもたちにとっても楽しい居場所として定着し、子どもが友達を誘ったり、また親御さんが声を掛け合ったりして参加者は広がってきている。

新しく参加してきた子にボードゲームを教える子の姿が見られたり、生演奏付きの読み聞かせを皆で聴いている場面で、初参加の子が集中できない大きな声を挙げると、かつて皆の邪魔をしていた子が、「静かにしてくれる」とちゃんと諭すように声をかけることができたり等、子どもたちが、子ども集団の中で変化、成長してきている。

そして中学生になった子どもたちも、受付を担当したりするなど今は大人の側のまなざしで小さい子どもたちを見てくれている。そういう姿を見ることが、私たち大人にとっても大きな喜びや力になっている。また、どうしていいかわからず、いつも外から子どもたちの様子を見ており、「就職大丈夫かな」とおばちゃんスタッフが心配をしていた大学生が、「就職しました」と報告に来てくれたり、「この場で報告したかった」と学校の先生になった報告をしに来てくれたりなど、人生の節目の喜びを共有できる場になってきている。

◆学校、行政との連携

調理実習に来ている、学校に行き辛い子どもの状況を発信することで、学校とも子どもを真ん中にしっかり連携することができた1年だった。「こんなことまでくださるのですね」と学校の先生も言ってくださって、その子にとって私たちの作っている場は無くてはならないものになってきている。またお母さんの心のよりどころにもなってきている。

・この実績を踏まえて次年度さらに受け入れてほしいと、地域のスクールソーシャルワーカーさんから依頼が来ている。

また、中学生から支援をしてきている、家族に支援のいる子どもたちのうち、一人は今年高校を卒業し、就職した。学校の担任の先生や、行政、生活保護のワーカーさん等と連携しながら、就職先を選んだり、就労にあたっての準備なども含めて折に触れて相談に乗ったり、必要な服を揃えたりなどの支援をしてきて、正規の職員にはなれなかったが、就労することができた。今後も引き続き、見守り支援していく必要があると思われる。

4、今後の課題など

◆一人の子どもも孤立させない地域に

子どもたちが育っていくうえで、学校でもなく家庭でもない地域の第3の居場所は欠かせない場所という事を実感してきている。

そして、『子どもは地域の宝』という思いを共有し、子どもを真ん中に学校を始め地域の様々な人たちが繋がらう事。そして、一人も孤立させない、人にとって優しい地域になっていく一つの接点となる場所として『晴嵐みんなの食堂』が役割を果たしていけたら良いと考える。

コロナ禍の影響で大人の暮らしもますます厳しくなっているように思われる。また、3年近い月日をコロナの感染から身を守るために今までにない体験をしたり、あるいは今までしてきたことができなかつたりと、コロナの感染が子どもたちに及ぼした影響はこれから顕著になってくると思われる。

子どもたちが笑いたい時に笑い、泣きたい時に泣き、大声を出し、ふれあい、そんな体験を取り戻せる場でありたいと思っている。

みんなの食堂の価値を地域の中で共有しながら、継続に必要な資金を地域の人たちの知恵も借りながら生み出すことも大きな課題として残されている。